

令和2年度 第1回「エコシティたかつ」推進会議 次第

日時：令和2年9月16日（水） 13時から

場所：高津区役所 5階 第1、第2会議室

1 開会

2 区長あいさつ

3 委員自己紹介

4 議事（質疑応答含む）

（1）「エコシティたかつ」について

（2）令和元年度の取り組みについて

（3）令和2年度推進事業の進め方について

（4）最近の適応策に関する動向等について

「 大地のデコボコから、自分のまちの防災を考える

～小学校敷地丸ごと3D化プロジェクトの成果から～ 」

（明治大学理工学部教授 田中 友章）

「 流域治水の考え方について 他 」

（慶應義塾大学名誉教授 岸 由二）

5 その他

（1）かわさきカーボンゼロチャレンジ 2050 の取組について

6 閉会

<配布資料>

資料1 「エコシティたかつ」推進方針（抜粋）

資料2 「エコシティたかつ」推進方針（本編）

資料3 「エコシティたかつ」の推進に向けた総合的な展開

資料4 「エコシティたかつ」推進事業2019年度概要版

資料5 令和元年度「エコシティたかつ」推進事業報告書

資料6 「エコシティたかつ」推進事業 令和2年度スケジュール

資料7 「学校流域プロジェクト」、「たかつの自然の賑わいづくり」事業の進捗状況について

資料8 エコシティツアー及び「エコシティたかつ」推進フォーラムについて

「エコシティたかつ」推進方針

(2009年3月策定、
2019年3月改定)

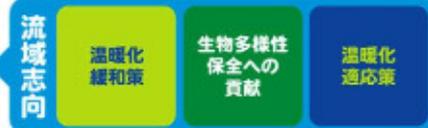
＜「エコシティたかつ」推進方針とは・・・＞

地球環境危機の時代において、高津区で顕在化している自然環境、社会環境、生活環境に関する諸課題に対し、地域の多様な主体が協力して、総合的かつ多面的に取り組むための基本的な方針です。

基本理念

地球環境危機の時代に対応した、自然の賑わいとともにある持続可能な循環型都市構造の再生と創造

エコシティたかつ
福利厚生・適応策・生物多様性保全への方策を、「流域」という枠組みで統合していく「エコシティたかつ」の長期環境戦略



＜基本目標＞

緩和策

①低炭素・省資源社会の実現

私たち一人ひとりが身近なアクションをおこし、地域／地球の二酸化炭素の削減につなげ、資源を有効に活用します。

生物多様性

②自然共生型都市再生の推進

丘陵などランドスケープを重視した、生命（いのち）の賑わい豊かな自然共生型の都市再生を地域から推進します。

適応策

③地域に即した防災まちづくりの推進

深刻化する局地的な豪雨や洪水、渇水に対し、流域の水循環に即した“水災害適応型都市”づくりを推進します。

＜実現に向けた基本的な考え方＞

エコだけじゃ、エコは進まない！

①環境的・社会的・経済的持続可能性の実現

環境的視点を重視しながらも、社会的視点や経済的視点を取り入れた取組を推進することにより、持続可能な都市をめざします。

大地の“でこぼこ”を考えたプランニング

②地域の流域特性に根ざした事業推進

基本的な地形に配慮し、それぞれの流域に根ざした緑地保全や健全な水循環系システムを構築することは、地球温暖化に伴う自然災害への適応策として、市民が安全に暮らしていくことのできる水災害に強い都市の基盤づくりとなります。

まちのみんなで進めよう！

③多様な主体の協働・連携による推進、区民の参加促進と担い手の育成

区民、企業、学校、行政等の多様な主体が情報共有を進め、共通の目標に向かって、それぞれの役割と責任の中でできることを行い、連携することで大きな推進力を生み、相乗的な事業展開や新たな取組の誘発につなげることが大切です。

区役所の事業をエコから捉え直す

④区の事務事業の環境視点からの見直しと総合的展開

区役所の事業を環境的視点から捉え直し、必要に応じて区役所が実施する各事業間の連携を進めることにより、効果的・効率的に「エコシティたかつ」を推進していきます。



・・・わたしと地球をつなぐ街・・・

「エコシティたかつ」推進方針

平成31（2019）年3月

川崎市

「エコシティたかつ」の推進に向けた総合的な展開

2009年度から2013年度までの取組

<学校流域プロジェクト>

学校を健全な水循環と生きものの賑わいを再生し支える地域のモデル基地と位置づけ、環境学習を実施する。
○小学校(14校)と市立養護学校にピオトープ整備 ○環境学習支援

<「たかつ自然の賑わいづくり」事業>

水系や流域等のランドスケープや生物多様性の視点を踏まえ、区内の河川の小流域を単位として、水・緑・生きものの調査を市民協働で実施し、適応策として地域から様々な活動を通じて、保水力・土砂防災力の高い流域づくりへの貢献及び自然の賑わいの回復を目指す。
○「たかつ水と緑の探検隊」による取組を市民健康の森・緑ヶ丘霊園で実施(生物の生育状況や保水力の状態の調査)
○調査結果に基づく外来植物の駆除作業・保水力向上の取組

<農的資源を活かしたまちづくりの推進>

「たちばな農のあるまちづくり」を推進する。
○農産物の紹介販売 ○農業体験
○ファーマーズマーケット「さんの市」の開催
○メサ・グランデ事業の実施

<エコシティホール化の推進>

区役所庁舎を環境展示場「エコシティホール」とし環境学習の場として活用した環境啓発を実施する。
○屋上緑化 ○壁面緑化(緑のカーテン) ○雨水利用 ○太陽光発電
○自動灌水装置 ○エコシティホールツアー
○産学官連携による共同研究(スナゴケを用いた屋上緑化の効果の検証)

<各種普及啓発活動の推進>

今日的な課題に対し、区民向けの各種普及啓発活動を、区民協働(市民・事業者・学校)で実施し、その中で「地球温暖化防止活動推進センター」等との連携を模索する。
○エコ・エナライフコンクール ○緑のカーテン講習会 ○エコシティたかつ応援団
○「エコシティたかつ」推進フォーラム ○「エコシティたかつ」推進会議
○CCかわさき交流コーナーにおける「エコシティたかつ」パネル設置

<その他>

○地図による地域環境資源の共有化の促進(立体地形図の作成、ベースマップ作成、ヒートアイランド・クールスポット調査の実施)
○まちなか油田プロジェクト(廃食油の回収、BDFの運行(かえるプロジェクト))
○エコ企業調査の実施(民間企業等7事業所等を視察)
○行政区レベルでの環境マネジメントの実践的な取組
○「緑と水でつなぐ 歴史街道 花街道」の推進
○円筒分水、かすみ堤を活かした「緑の回廊」づくりの推進

成果と課題

○計15箇所のピオトープを整備し、取組の拠点を作り、環境学習を実施することができた。
●健全な水循環のモデルとなる取組を推進する必要がある。
●地域のモデル基地となるよう学校や地域への働きかけが必要である。

○「たかつ水と緑の探検隊」による、生物多様性・保水力向上について試行的な取組を行うことができた。
●試行における経験を活かし、生物多様性・保水力向上について実践的な取組を行う必要がある。

○さんの市など、「たちばなブランド」農産物の購入や食事ができる仕組みを作ることができた。
●援農に対する農家・区民の期待が大きい。
●区内の農的資源の把握を進める必要がある。
●農的資源について生物多様性や適応策の観点から評価し、取り組む必要がある。

○区役所庁舎内において緑化や環境技術の導入を行うことができた。
●区役所庁舎だけでなく区内公共機関等への面的な広がりを図る必要がある。

○各種啓発イベント等を実施し、環境意識の向上や「エコシティたかつ」の取組のPRを行うことができた。また、緑のカーテン(ゴーヤ等)についても普及することができた。
●これまでの取組を継続するとともに、関係機関と連携した様々な機会や手法を活用した取組を行う必要がある。
●エコ・エナライフの普及(エコエナライフコンクール)については、新たな取組の手法を検討する必要がある。

今後の取組の視点

●これまでの成果を踏まえ、各プロジェクトを流域思考に基づき「緩和策」、「適応策」、「生物多様性」の視点から、社会状況や自然環境の変化に対応した、面的な広がりや質的な向上を図っていく必要がある。
●緩和策については、区民や関係団体の取組が充実しており、引き続き連携を行っていく必要がある。
●適応策と生物多様性については、関係団体との連携により、一層の実践的な取組や普及啓発を推進していく必要がある。

推進方針に基づく2014年度以降の取組(方向性)

<学校流域プロジェクト>

適応策 生物多様性

完了
○ピオトープ整備(子母口小、2015年度) ○環境学習支援 ○教職員向け学習会
◎学校を流域に見立てた、健全な水循環のモデルとなる取組(雨水貯留・雨水循環の仕組み等)の検討
◎地域に開かれたピオトープとするためのボランティアスタッフの育成の検討

<「たかつ自然の賑わいづくり」事業>

適応策 生物多様性

◎試行における経験を活かした、「たかつ水と緑の探検隊」における生物多様性・保水力向上の実践(取組場所:緑ヶ丘霊園)

<農的資源を活かしたまちづくり>

緩和策 適応策 生物多様性

○「たちばな農のあるまちづくり」の推進(「さんの市」の拡充、援農の拡充等)
◎区内の農的資源の活用に向けた調査・検討

<生物多様性の視点を踏まえたエコ・コミュニティづくり>

緩和策 適応策 生物多様性

生物多様性の視点から、生き物の生息・生育の拠点となる緑や水を維持・拡大・創出するとともに、拠点間における連続性の確保を図るとともに、取組を推進するための関係機関のネットワークを構築する。
○久地緑地・円筒分水・かすみ堤等を活かした緑の回廊づくり
○「エコシティたかつ」応援団 ○エコ企業調査
◎公園や学校ピオトープ等を活用した取組の推進

<環境技術等の導入の推進>

緩和策 適応策

区役所庁舎の「エコシティホール化」を継続するとともに、区内公共施設や企業等における環境技術や環境に配慮した取組等の導入を推進する。
○区役所庁舎の「エコシティホール化」の推進
◎溝口駅周辺のエコ化の推進 ◎区内公共施設や企業等への導入の促進
◎市民主体の各種プロジェクトとの連携

<各種普及啓発の推進>

緩和策 適応策 生物多様性

環境教育・環境学習等を実施し、環境配慮意識を広めるとともに、環境に配慮した取組を積極的に実践する人材を育成する。
○エコシティホールツアー ○エコ・エナライフの普及啓発
○「エコシティたかつ」推進フォーラム ○「エコシティたかつ」推進会議
◎エコシティツアー ◎雨水樽・雨水浸透マス等の普及促進

<区内環境資源等の情報収集・共有>

緩和策 適応策 生物多様性

区内の環境資源や環境関係団体に関する様々な情報を収集するとともに、収集した情報を多様な主体による取組につなげるために、誰もが活用できるようにわかりやすく情報発信する。
◎地域の環境資源や環境関連団体の情報収集とマップや模型による情報共有
◎ICTを活用した情報発信・共有の検討
◎ヒートアイランド・クールスポット調査の展開

…わたしと地球をつなぐ街…

エコシティたかつ

推進事業 2019年度

基本理念
地球環境危機の時代に対応した、自然の賑わいとともにある持続可能な循環型都市構造の再生と創造
100年後のたかつのまちのために

「エコシティたかつ」の基本目標

緩和策
低炭素・省資源社会の実現

私たち一人ひとりが身近なアクションをおこし、地域／地球の二酸化炭素の削減につなげ、資源を有効に活用します

自然の賑わい・生物多様性
自然共生型都市再生の推進

丘陵などランドスケープを重視した、生命（いのち）の賑わい豊かな自然共生型の都市再生を地域から推進します

適応策
地域に即した防災まちづくりの推進

深刻化する局地的な豪雨や洪水、濁水に対し、流域の水循環に即した「水災害適応型都市」づくりを推進します

「流域」とは、降った雨が集まる、大地の範囲・領域のことです。

自然の賑わい・生物多様性とは

池や湿地、森など多様な生態系に、たくさんの生きものが相互に関連しながら生息している状態のことです。

環境まちづくり普及啓発事業

～小学校敷地丸ごと3D化プロジェクト～

小学校敷地を小流域と見立てて、当該エリア内の流域での自然の地形（大地のデコボコ）を前提とした水の流れを意識し、適応策（賢い雨水の引き受け方）を考える機会を提供します。

● **3次元スキャナーによる計測**

明治大学理工学部建築学科 田中研究室と協働で、川崎市立南原小学校周辺敷地を対象として、3次元スキャナーを用いたデータ計測を行い、その計測成果についてビジュアライズを行いました。

● **川崎市立南原小学校での出張授業**

取組の成果物を用いて、南原小学校の5年生を対象に「大地のデコボコから、みんなのまちの防災を考えてみよう!」と題して出張授業を行いました。



区内の農的資源を活かしたまちづくりの推進

- ファーマーズマーケット(高津さんの市)の開催・定着化
- 農業体験の実施
- 地域交流拠点との連携
- 区役所レストランで区内で取れた野菜を使ったメニューを提供
- 「高津のさんばみち」を活用した風景撮影ツアーの実施
- SNSを活用し区内の「映える」風景を募集するフォトコンテスト



みんなで進めよう! 「エコシティたかつ」

「エコシティたかつ」は、高津区で生活し、学び、働き、活動する私たちが、それぞれの立場でできることを行い、相互に響き、支えあうことで、大きな推進力が得られます。みなさんも一緒に「エコシティたかつ」の活動を進めませんか。

連絡先:
川崎市高津区役所 企画課

電話: 044-861-3131 / FAX: 044-861-3103
メールアドレス: 67kikaku@city.kawasaki.jp

join us!

エコシティたかつ

クリック!

「エコシティたかつ」協賛・協力企業

NECプラットフォームズ株式会社、株式会社川崎フロンターレ、久政農園、株式会社富士通ゼネラル、株式会社ホテルKSP、株式会社丸井、森正養鶏場 (敬称略、50音順)

「エコシティたかつ」推進事業 2019年度 報告書概要版
発行日: 令和2(2020)年3月
発行所: 川崎市/「エコシティたかつ」推進会議
事務局: 川崎市高津区役所
デザイン: 有限会社 tt-unit

2019年度のプロジェクト報告

19



学校流域プロジェクト

学校にビオトープ(池や草原、林など)や雨水利用施設を整備し、生きものや水循環について子どもたちが学ぶ場を作るプロジェクトです。



●環境学習支援

区内市立小学校14校と中央支援学校に対し、ビオトープ等を活用した生き物の採取・観察や、砂場を利用した流れる水の働きの学習など、体験活動を通じた環境学習を実施しました。
また、学校でのビオトープの利活用を進めるため、区内小学校教職員を対象に研修会を実施しました。



区役所の緑化等、環境技術導入によるエコシティホール化の推進

区役所庁舎では、屋上太陽光発電システム、職員手づくりのビオトープ、ペットボトルキャップから作られたベンチ、光触媒看板など、環境に関するさまざまな取組を、例として展示しています。



●エコシティホールツアーの開催

川崎市地球温暖化防止活動推進センターと協働で、小学生を対象に区役所の環境に配慮した取り組みを紹介するエコシティホールツアーと、簡単に作れるミニソーラークーラーの工作を行いながら自然エネルギーを学べる体験教室を開催しました。



「たかつの自然の賑わいづくり」事業

専門家と一緒に、水・緑・生きもの調査(外来の植物や生きもの探しも含む)を行い、さまざまな活動を通して、地球温暖化適応策・生物多様性保全への貢献を市民協働で行うプロジェクトです。



●たかつ水と緑の探検隊

川崎市立緑ヶ丘霊園内の森の一部では、常緑樹により林床が暗く、下草が少ないため、保水力が低下しています。
霊園内の谷戸の森をモデル地区として、間伐による健全な森の再生や、ホタルやトンボが舞う谷戸づくりを目指して、下作延小学校の児童と間伐などを行いました。



●たかつ生きもの探検隊(小学生向け)

専門家と一緒に緑ヶ丘霊園内の森を観察し、生きもの探しなどを実施しました。神奈川県では準絶滅危惧種に指定されているムネアカセンシコガネを捕まえるなど、楽しみながら自然の生態について学びました。



エコシティツアー

「エコシティたかつ」推進会議委員同士の相互理解を深め、協働や連携を進めるためにエコシティツアーを実施しました。委員や関係者を対象に、団体推薦委員(区内企業)である株式会社富士通ゼネラル様の環境活動の紹介と本社施設の見学などを行いました。



令和元年度

「エコシティたかつ」推進事業

報告書

令和2年3月

川崎市高津区役所

「エコシティたかつ」推進事業 令和2年度スケジュール

0901時点

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校流域プロジェクト			●学習支援 ・区内市立小学校及び中央支援学校で学習支援の実施を予定									→
「たかつの自然の賑わいづくり」事業						●9/13たかつ生きもの探検隊 ※小学生向け				●水と緑の探検隊(仮)		
普及啓発イベントの実施	●デジタルサイネージを活用した普及啓発						●エコシティツアー(仮)		●推進フォーラム(仮)			→
橘地区の農的資源を活かしたまちづくりの推進							●10/4 親子で楽しむ秋の農体験 ●10/20 さんの市	●11/10 ステキに映え農フォトツアー	●12/15 さんの市 ●12/10～17 高津市民館で写真展 ●12/18～24 区役所市民ホールで写真展		●2/16 さんの市	
「緑と水でつなぐ 歴史街道 花街道」の推進		●5/19 「区民ミニ・ガーデン」運営委員会(第1回)				●9/4 「区民ミニ・ガーデン」運営委員会(第2回)		●11/15 溝口駅前キラリデッキ植栽体験イベント(小学生親子優先) ●「区民ミニ・ガーデン」三役会	●12/6 花街道植栽体験イベント ●「区民ミニ・ガーデン」運営委員会(第3回)			●「区民ミニ・ガーデン」運営委員会(第4回)、三役会
小学校敷地丸ごと3D化プロジェクト									●小学校で出張授業 ※時期未定			
「エコシティたかつ」推進会議						●9/16第1回推進会議					●第2回推進会議	

「学校流域プロジェクト」「たかつ生きもの探検隊」の進捗状況について

1 学校流域プロジェクトについて

学校にビオトープや雨水利用施設を整備し、生きものや水循環について子どもたちが学ぶ場を作るプロジェクト

2 ビオトープを活用した環境学習支援の実施状況について

学校名	実施日	学年等
子母口小学校	11月10日(火)	5年生5クラス
新作小学校	日程未定	飼育委員会
東高津小学校	7月30日(木)	6年生5クラス(171名)
坂戸小学校	10月15日(木)	5年生3クラス
久本小学校	7月27日(月)	5年生4クラス(144名)
梶ヶ谷小学校	6月30日(火)	3年生4クラス(146名)
西梶ヶ谷小学校	8月21日(金)	3年生3クラス(87名)
上作延小学校	日程未定	5年生3クラス
橘小学校	新型コロナウイルス感染症の影響で中止	
末長小学校		
下作延小学校		
高津小学校		
久末小学校		
南原小学校		
久地小学校		
中央支援学校		

3 ビオトープを活用した教職員向け環境学習研修会の開催について

新型コロナウイルス感染症の影響で中止

4 たかつ生きもの探検隊の開催概要

- (1) 日 時 令和2年9月13日(日) 10時00分～11時45分
- (2) 会 場 せせらぎと親子広場
- (3) 参加者 小学生と保護者13組で29人(小学生15人、保護者14人)
- (4) 内 容 ○多摩川の地形などについて説明
○生きものの採集と解説

エコシティツアー及び「エコシティたかつ」推進フォーラムについて

1 たかつエコシティツアー

- 趣 旨： 推進会議の委員の方々にお互いの環境への取組について知る機会を設け、ご自身の活動への動機付け等図ることを通じて多様な主体の協働・連携の推進を図るもの。
- 日 時： 令和2年10月又は11月の平日、約2時間
- 場 所： マルイファミリー溝口・ノクティプラザ（川崎市高津区溝口1丁目4-1）
- 対 象： 「エコシティたかつ」推進会議委員
- 内 容： 「みんなで地球をまもろう！」をテーマに再生可能エネルギーへの転換、ゴミの資源化、生物多様性への取組などを積極的に行っているマルイファミリー溝口・ノクティプラザの環境活動紹介及び意見交換会と、エコファクトリーや緑化施設他の見学を予定しています。（第8回スマートライフスタイル大賞最優秀賞受賞）



レイアウト・案内表示の刷新や床・壁・照明を改善し、誰もが安心して分別できる環境を整えたエコファクトリー

2 エコシティたかつ推進フォーラム

- 趣 旨： 区民の気候変動適応策や生物多様性保全等に関する意識啓発を図るとともに、「エコシティたかつ」の取組に対する理解向上を図る広報事業として実施
- 経 緯： 平成30年度まで本事業の啓発を目的としてフォーラム形式でイベントを開催してきたが、年々集客が難しくなっている。今年度は試行的に地域の方が多く集うイベントに参加し、より広い情報発信に取組、次年度以降を見据えた検証を行いたい。
- 方 向 性： 既存のイベントに参加を検討
- 候 補： ◎かわさき環境フォーラム（12月）、○あんあんフェスタ（3月）
- 内 容(案)： パネル、立体模型などの展示